

学力調査等の状況	
・学習面において、自信をもっていない児童が多い。 ・国語、算数ともに全国や東京都平均より大きく下回っている。国語については特に「話す・聞く」「読む」の分野、算数は全般的に低い。 ・全国や東京都平均に比べて、TVや動画視聴、ゲーム、SNSをしている割合が2倍以上多い一方、ネット関係の約束を守れている児童は比較すると少ない。 ・学校以外で勉強する時間が極端に少ない。	

見えてきた課題	
・「見通しがもてる授業」「誰もが取り組むことができる授業」「自分にもできると実感できる授業」を心がけて、児童が自信をもって学習に取り組めるよう、日々の授業を進めていく。 ・自ら課題を発見し、主体的に取り組めるような教材や場面設定の場を、教員側が意識して取り入れていく必要がある。 ・家庭へ生活環境を整えていくことの情報発信を継続的に進め、家庭の協力を得られるようにする。	

授業をデザインする8つの取組について	
見通しをもたせる導入	導入で単元の流れを確認し、どのような学習を進めていくかを知り、児童が計画的に取り組めるよう見通しをもたせる工夫を行う。
振り返りの設定	授業や行事の終わりに学習感想を書くなど、振り返りをする時間を意図的に設定する。キャリア教育の一環と捉え、繰り返し取り組むことでPDCAサイクルの実現に努める。
ICT機器の活用	Chromebookやプロジェクターを活用し、教材を共有したり協働学習に取り組ませたりする。

各教科における課題を改善するための指導の重点				
	年度当初に設定した重点	低学年	中学年	高学年
国語科	○言語を視覚的に捉えるため、動作を加えたり、現物を見せたりする。 ○漢字を定着させ、漢字を用いて書く習慣を身に付けさせるために、朝学習の時間を活用し、漢字の学習を繰り返す行う。	○読み取る力の伸長を図るため、説明文や物語文など様々な教材に触れる中で、文章を読むことに慣れさせる。理解できないときは再度、読み返すことにより、読む力を付けていく。 ○平仮名や片仮名、漢字を正しく書けない児童がいるため、朝学習や宿題を通して繰り返し学習し、習得させるようにしていく。	○文章を読み取る力の伸長を図るため、筋道を立てて文章を読み取るよう、物語文や説明文を通して文章に慣れ親しませる。 ○書く力が弱い児童、様々な活動(振り返り・日記・作文など)を通して、自分の考えや気持ちを書く経験を積ませていく。 ○漢字の習得にむけて、朝学習や授業内で正しく書けるよう繰り返し指導していく。	○場に応じた声の大きさと話ることができるよう、音読を行ったり、ディベートなどの活動を通して、自分の意見をしっかりとめたり、友達に伝えられるよう指導する。 ○漢字が身に付くよう小テストを繰り返し行うとともに、日常の文章の中でも漢字を使うよう指導をする。
社会科	○つかむ→たてる→調べる→まとめるという社会科の学習の流れを身に付けさせ、単元を貫く学習問題をつかませる。 ○資料集や地図や映像資料などを数多く活用して、調べる能力を身に付けさせるようにする。	(中学年からスタートに向けて現時点で意識する指導の重点) ○生活科の学習で学校探検をし、実際に歩いた場所と校内地図が一致するように指導する。 ○生活科の「えがおのひみつたんけんたい」の単元で、施設や場所に目を向ける視点を育てる。	○3年生になり初めて社会科の学習をするため、地図や表などの資料の見方の視点を教えるとともに、資料活用の問題に慣れさせていく。 ○実際に行って調べたり、話を聞いたりすることで、学習課題を自分事としてとらえ、理解を深める工夫を行う学習をしていく。また、Chromebookを活用して情報を集める。	○資料集や地図帳、Chromebookを効果的に使い、新聞づくりなどを通して、調べたものを活用する力を養う。 ○複数の資料を比較や分類したり統合したりする思考力や判断力が弱い児童、資料集を活用しながら資料の読み取りをしていく。
算数科	○前学年までの復習をしながら、既習事項をもとに自力解決に取り組む、協働学習を取り入れて、解決の方法を導き出していけるようにする。 ○具体物を提示して視覚的にも捉えられるようにする。 ○授業において、Qubena等の補助教材を取り入れ、補充の学習などに活用する。	○既習事項の習得を図るため、既習の内容の振り返りを行う。 ○たし算・ひき算・かけ算の学習では、ブロック等の具体物を使い、立式の根拠としたり、計算の確認をしたり視覚的に進めるようにする。 ○なぜ、どうしてという「問い」を大切に、課題に対して話し合いながら、問題解決に取り組む。	○関連する既習事項を振り返り、新しい計算問題に取り組む際に、必要な既習事項を児童に問いながら学習する。 ○問題文に下線を引いたり、図で表したりして、立式の根拠とする。 ○自力解決の後、話し合いや、ICT機器を使って考えを共有する場面を作る。	○関連する既習事項を振り返り、新しい計算問題に取り組む際に、必要な既習事項を児童に問い、確認してから学習する。 ○Qubenaを活用し、学習内容の定着を図る。 ○自力解決の後、話し合いや、協働学習をしたり、ICT機器を使ったりして考えを共有する場面を作る。
理科	○一人一人の課題意識を高めるために、問題作りや実験前の予想をたてることに重点を置く。 ○結果をノートやプリントに記録し、結果から結論を導き出す。学びの流れを分かりやすく提示して、自己解決能力を身に付けさせる。 ○実験や観察の時間や機会をできるだけ多く設定し、学習意欲を高める。	(中学年からスタートに向けて現時点で意識する指導の重点) ○生活科の「きれいにさいてねわたしのはな」「めざせ 野さい作り名人」の単元では、すすんで植物に関わろうとする態度を育てる。 ○生活科の単元「きせつと なかよし」では春夏秋冬の季節の変化を、時間の経過を意識して捉えられるようにする。	○実験や観察の時間の中で、Chromebookを使って、過程を撮影する。ノートやChromebookの記録を見て、結果から結論を導き出す。 ○問題作りや実験前の予想の場面では、なぜやどうしてなどの問いを作る。	○実験や観察の中で、Chromebookを使って、過程を撮影する。 ○ノートやChromebookの記録を見て、結果から結論を導き出す。 ○実験や観察の際に、予想、活動、考察の流れを徹底し、根拠をもって、自分の意見や考えを構築することができるよう指導する。

⑮-2授業改善推進プラン(中間改善計画)

	年度当初に設定した重点	低学年	中学年	高学年
生活科	○体験活動の場を多く取り入れ、定着を図る。 ○家庭への協力を呼びかけ、学校で学習したことを振り返り、自分への気づきが深められるようにする。 ○栽培・飼育活動を通し、動植物の命の大切さを飼育活動・栽培活動を通して育てる。	○「きれいにさいてね わたしのはな」「めざせ 野さい作り名人」の単元では、すすんで植物に関わろうとする態度を育てる。 ○「きせつと なかよし」では春夏秋冬の季節の変化を、時間の経過を意識して捉えるようにする。		
音楽科	○基礎的・基本的な技能が発声・器楽で身に付くように、意欲を高めることのできる指導をしたり、視覚的に分かりやすい資料を掲示したりする。 ○鑑賞においては、聴いた音を体で表現するなどして、目に見えるところを具体的に、児童にとって分かりやすいように、また評価しやすいようにしていく。	○低学年は明るく元気に歌うことに偏りがちなので、しっとりした歌も取り上げ、中学年から始まる二部合唱に向けて歌唱力を高める。自分の声、音だけでなく周りの音や演奏も聴けるような指導をする。 ○鑑賞においては、その時間に学習する題材だけでなく関連する楽曲の映像なども取り入れながら児童の興味を引き出す。	○児童同士で教え合う、合わせてみることでみんなで上達していく、自信をもって演奏する気持ちを育てる。 ○4年生から二部合唱の学習が始まる。ソプラノ、アルトそれぞれのパートをしっかりと覚えるところからスタートし、段々と相手のパートの声を聴きながら綺麗なハーモニーを作れるよう時間をかけて行う。	○楽譜に書かれたとおりに演奏するだけでなく、楽曲にこめられた思いや意図を感じながら演奏できるように、児童同士でどのように演奏したいか、強弱をどこでどうつけたいかの意見を出し合うなどのグループ学習を取り入れる。
図工科	○自分の造形活動に自信をもち、友達の作品から更に発想を広げていけるように、作品のよいところを互いに見合う、伝え合う活動を増やす。 ○大型画面などを使用し、児童に製作の流れ等を実演的に伝える。	○各題材が完成する度に児童が友だちの作品を鑑賞する時間を取り、作品の楽しさや面白さを感じ取るらせていく。 ○書画カメラ等を使い実際に教師の実演や児童の作品などを児童に見せて指導する。	○児童同士が製作中に友だちの作品を見合う機会を意識的につくり、児童が友達の作品のよさを自分の作品に取り入れていくような環境をつくる。また、作品完成の際には、友達の作品を鑑賞する機会を設け、作品の面白さやよさを感じ取る活動を行う。 ○道具の導入の際には、使い方の動画を繰り返し見せるなどして使い方を児童に理解させる。	○途中の作品を掲示するなど、児童が自然に作品の相互鑑賞を行うことができる環境をつくる。また、作品完成時には、児童同士が友達の作品を鑑賞する活動を取り入れ、作品のよさや美しさを感じ取らせる。 ○書画カメラ等を使い実際に教師の実演や参考となる児童の作品などを児童に見せながら指導を行う。また、道具の使い方や発想のヒントとなる動画を見せる。
家庭科	○具体物を用いた実習の機会を多くして学習意欲を高めるとともに、生活に結び付く技能が身に付くように授業展開を工夫する。 ○自分の経験を思い起こしそれと学習内容とを結び付けることで、日常生活に生かそうとする意欲と態度、実践力を高めるようにする。			○細かい作業など、書画カメラやDVDなどの映像を活用し、見やすいよう指導の工夫をしたり、調理の学習など出来ることを工夫しながら、児童が身近に家庭科の学習を身近に感じられるよう指導していく。 ○一人一台ミシンが使えるように中学校と連携し、全員がミシンを使い、これからの生活に生かせるよう工夫する。
体育科	○整列、体育座り、準備体操など、9年間かわる基本的な動きの確認を行い、話を聞こうとする素地を育む。 ○持久力が低いため、持久走月間を取り入れる。 ○器械運動はChromebookを活用し技の改善や完成度を高めるためのコンテンツとして活用する。	○整列、準備体操、団体行動など集団行動の基本を身に付ける。 ○ボール、マット、跳び箱などの用具を使い、基本の運動を身に付け、楽しく運動に取り組めるようにする。	○様々な運動に取り組む場を設定し、各種の運動の基本的な動きや技能を身に付ける。 ○一人一人が、自分に合った課題をもち、その課題の解決に向けて学習を展開することで、考える力を育成する。	○ICT機器などを準備し、撮影することで自分の動きに目を向けさせ、課題を見付けるようにする。 ○資料を拡大し、気付いたポイントなどを書き込み、全体で共有できるようにする。
外国語科	○繰り返しチャンツやゲームなどを行う中で、英語を言うことを楽しみ、英語に慣れ親しませる。 ○英語教室の掲示物やデジタル教材で英単語を見る機会を意図的に増やし、アルファベットや英単語を書くことができるようにする。			○授業の中で、チャンツやゲームを組み込み、英語の発音に慣れるとともに、英語を話すことを楽しむことができるようにする。 ○ピクチャーカードやデジタル教材などを見たり聞いたりする機会を増やす。 ○英単語や短い文章を書くことができるようにする。

各教科における課題を改善するための指導の重点

⑮-2授業改善推進プラン(中間改善計画)

	年度当初に設定した重点	低学年	中学年	高学年
総合的な学習の時間	○公共の場での行動や地域の方とのかかわりを考えさせ、話すこと、聞くことの素地を育む。 ○学校周辺の自然環境や、地域の人々に触れ、自分たちができていることを考えて取り組む。		○自然や地域、人々との関わりを通して、問題解決能力を育成する。特に本校の特色である環境教育や地域の人材や保育園などの施設と連携し、主体的に考えることや、協働・探究活動を学習に取り入れていく。	○発問を工夫したり、ICTを活用し、自分たちが進めているという気持ちをもたせるよう進めていく。その中で、校内研究(キャリア教育)で目指す、「自分の役割を果たす」力を高める。
特別の教科 道徳	○教科書「新しい道徳」を活用し、町田市小中一貫規範教育カリキュラムの実施を通して、規範意識や公共心、自尊感情を高める指導及び生命尊重や人権尊重の精神の育成を図り、児童の道徳性を養う。 ○授業では、自分の考えを深める場面を設定し、他者に考えを伝え合う中で、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てていく。	○自分の特徴に気付いたり、やるべきことをしっかりと取り組んだりする気持ちを育てる。 ○周りの人に親切にしたり、感謝したりする心情を育てる。 ○生命を大切にし、みんなのために働く態度を育てる。	○正しいと判断したことは、自身をもって行う態度を育てる。 ○自分でできることは自分でやり、よく考えて行動し節度ある態度を育てる。 ○誰に対しても分け隔てをせず、公正・公平な態度で接する心情を育てる。	○ワークシートに記入をもとに、自分の考えを発表することで、様々な考えがあることに気付いたり、自分の意見との違いを感じられるようにする。 ○学級全体でのアンケートなどを参考にし、身近なものとして考えられるよう工夫していく。
特別活動	○友達とのかかわり方や人間関係づくり等の指導の充実を図るために、学級活動や学校行事を通して、望ましい集団活動の展開を考え、集団や社会の一員としての自覚と責任感を深めさせる。 ○縦割り班による校外学習や集会活動を通年でを行い、異学年との交流を深め、主体的に判断し行動する力や豊かな心の育成を図る。	○学校生活を、よりよく充実したものにしようとする意欲や態度を育てる。 ○グループや学級の話し合い活動や学級・学校の行事を通して、約束を守り、友だちと仲よく良好な関わりをもとうとする態度を育てる。	○自主的・自発的に活動し、学校生活を充実させようとする意欲や実践態度を育てる。 ○自分らしさを発揮しながら考えを出し合い、計画・実行しようとする意欲や実践的態度を育てる。 ○学級会の進め方を理解し、自分の意見を伝えることができるよう指導を行う。	○高学年としての意識をもち行動できるよう子供たちの思いや意見を出させ、それを実現できるよう進めていく。 ○Chromebookの機能を活用しながら、学校全体・学年での問題点や解決策を考え、改善し、よりよい学校生活を送れるよう振り返りをする時間を設定していく。 ○学級会の活動を通して、皆とよりよい結論を出せるよう指導を行う。
外国語活動	○チャンツ、歌、ゲームなど繰り返し行い、英語について慣れ親しませる。		○チャンツや歌、ゲームなどを繰り返し行い、英語について楽しんで話すことができるようにする。 ○見本を聞いて、同じように発音することができるように繰り返し練習を行う。	